

【安中市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

本市では第3次安中市総合計画において、「自分らしく 心豊かに暮らせるまち」を基本目標の1つとし、その中の施策として「小・中学校教育の充実」を掲げ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から子どもたちが主役となる授業づくりに取り組むことを目指している。

ICT 環境を整備することで、一人一人の学習進捗や理解度に合わせて個別最適な学びの実現を図ったり、協働学習やオンラインでの交流を通じて児童生徒が主体的に考え、他者と協力しながら学びを深めたりすることができる。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりや学びの基盤としての ICT の有効活用を図り、魅力ある学習活動を展開することを目指していく。

2. GIGA 第1期の総括

国の GIGA スクール構想を受け、本市では、令和3年度までに公立小中学校の児童生徒、教職員に対し、計3990台の1人1台端末の整備を完了するとともに、高速通信ネットワークや無線 LAN 環境の整備を行い、ICT を基盤とした新たな学びの確立を進めてきた。

令和3年度、4年度には安中市教育研究所において、各学校1名ずつが参加し、ICT 活用のための研究を行った。令和3年度は授業中での効果的な ICT 機器の活用法を探る研究、令和4年度は授業での活用方法に加え、校務での活用方法や本市で活用しているアプリについての体系表を作成するなど学校間の足並みをそろえながら、ICT 機器の活用促進を図ってきた。

各学校においても校内研修で ICT の活用を研修主題に掲げ、研究授業や日々の情報交換、ICT 支援員を活用した研修などを行い、一人一台端末を活用した授業を積極的に行ってきた。端末の活用が活発になると、活用すること自体が目的になってしまう授業も見られたが、令和5年度、6年度と、授業の中で効果的に活用するためにはどうしたらよいかという視点で授業改善を進める学校が多くなっている。

指導者が、どの場面で、何のために端末を活用するのかということをしかりと把握し、学びの基盤としての ICT 活用を推進していく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和7年度中の端末整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。

授業の中で、学習支援アプリ、AI ドリル等を活用した児童生徒の興味関心や習熟度に応じた個別最適な学びや協働的な学びを推進する。

授業外では、端末の持ち帰りを推奨し、児童生徒個人が自分の興味関心・学習状況に合わせて学習ができるようにしたり、校外学習等でも端末を活用した情報収集、発表資料の作成などに活用したりするようにしていく。

ICT の活用は児童生徒の学びの質や教師の指導・支援のあり方に大きな影響を与える。学校間、教職員間で差が生まれないように、クラウドを活用した情報共有や各校を巡回する ICT 支援員を活用しながら、ICT 活用の意義を理解し、学習活動の中で効果的に活用できるようにしていくことが大切である。